

7月14日 研究授業協議会まとめ

【協議会】

○グループからの発表

- ・自分と同年齢の子供たちを絡めた体験を話したことは、児童自身とのつながりができて、有効だった。Aを達成している児童が多くいたのでは。
- ・ワークシートに書き込む姿等を見て、問題に気付いてBを達成できた児童はいたが、「解決しなければいけない問題がある」という意識を持てたA評価の子は少なかった。考えたことを発表するときに、もう少し一つの発言を深めればAがいたかもしれない。
- ・世界の問題は難しい。B評価「発言してるか」・C評価「書いているか」ではなく、発する内容において「環境」等のキーワードがあればB、ただの驚きであればCというかたちで評価基準を定めたらいいと思う。
- ・SDGsを提示することは、もう少し後でもよかった。課題設定が5時間目であり、それまで共通体験なので、5時間目でもよかった。
- ・「解決したい」というところまで狙っていなかったのかも。自分毎に寄せることが大切。
- ・グアテマラの子供からの児童への投げかけ「みんなはどんなことにがんばってる？」などがよかった。

○手立てについて

- ・児童と同じくらいの年齢の生活を考えたが、その中で自分との生活と比べられるように、自分に返すために発問をした。
- ・SDGsのロゴを今日は出さなくてもよかったと思った。相手の文化の良い部分もまず知りつつ、解決したい問題が出てくるとよかったと思う。
- ・SDGsのロゴを今日だしてよかったと思う。今日考えたこととSDGsとがつながり問題意識が高まった。
- ・SDGsはあくまでもツールでその課題を解決するために学習ではないからSDGsのロゴの扱いが難しい。
- ・熊手チャートを使って問題をわかりやすくまとめていたが、学校に行けない事等をさらっと流すのではなく、一歩踏み込んで考えることでもっと深まると思った。

○その他

- ・扱うアイコンが多い。広く浅くなるのでは。しぼりこんでいくのが難しいのではないかな。
- ・一つの問題について考えるのではなく、様々な問題を考え、それらがつながっていることも理解させることが必要だと考えている。
- ・世界の問題とはどのようなことを指すのか、もう少し共通理解が必要。
- ・環境以外の問題で、難民、紛争、飢餓、差別、ジェンダーなどSDGsの17の目標を基に世界の問題を考えていく。
- ・資料提示して全員が個人で考えた時間だった。世界の問題について個人でしっかり考えることができた。「

□学習指導案から

- ・課題解決力という視点で学習指導案の構成を考えている。
- ・持続可能な社会づくりの構成概念は知識・技能に、ESD の視点に立った学習指導で重視する能力態度は思
判表と主体的に学習に取り組む態度に位置付けている。
- ・評価規準を探究的な過程の中に位置づけていることが八小の研究として提案できる。
- ・単元については1次で「発見」「探究」、2次で「行動」という構成になっていて、昨年度の反省を生かした
学習の流れになっている。
- ・目指す児童像を見ると全校で系統性があり、低学年「発見」、中学年→「探究」、高学年→「行動」という流
れになっている。
- ・教材観には「自己の生き方を考えてほしい。」という教師の思いがある。
- ・5年で環境をやって積み重ねがある。

□本日の授業から

- ・子供が学習内容を「自分事」として身近に感じていることが大切。身近に感じるためには共通点を見付ける
ことが有効。共通点を見付ける中で児童は対象を身近に感じる。
- ・課題解決的な学習を充実させるためには、児童の思考に沿った「つながり」になっているか吟味することが
大切。
- ・学習評価の目的は①教師が「子供たちにどのような力が身についた」という学習の成果を的確に捉え、主体
的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図ること。②児童・生徒が、自らの学びを振り返って次の学び
に向かうことができるようにすること。
 - ・指導と評価の一体化を進めるために学習評価を①児童・生徒の学習改善につながるものにしていくこと
 - ②教師の指導改善につながるものにしていくこと③必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
が大切。
- ・単元の目標を学習指導要領の3観点に沿って明確に設定することが大切。その上で本時の目標を考え、その
ための学習活動を設定する。学習活動の目的は何か教師が意識することが大切。
- ・本時の評価規準は目標に準じて設定することが必要。
- ・指導と評価の一体化を進める上では、「目標の明確化」、「授業改善」がキーワード。
 - ⇒教師が何を教えるか＝子供にどんな力が身についたか、
 - 教師の指導がどうだったか＝子供の姿がどうだったか
- ・今日の授業は4つの流れで考える。
 - ①紹介文を考える。②生活を知り、感じたことを発表していたが自分事として身近に感じさせることが大切。
差異点ではなく、共通点も提示すると身近に感じる。
- ・自分たちと比較させて考えさせるためにもう少し、一つ一つの発言について考えてもよかった。
 - ③SDGs のロゴを提示
- ・「これがなぜ目標1なのか？」と突っ込んでつなげていくほうが気付きもあり、深まってよかった。教師のコ
ーディネート力を発揮することが大切。
 - ④学習感想を学習シートに書く
 - ・次につなげていくことが大切。

□学習評価について

- 学習評価の目的は①教師が「子供たちにどのような力が身についた」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図ること。②児童・生徒が、自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすること。
- 指導と評価の一体化を進めるために学習評価を①児童・生徒の学習改善につながるものにしていくこと②教師の指導改善につながるものにしていくこと③必要性・妥当性が認められないものは見直していくことが大切。
- 単元の目標を学習指導要領の3観点に沿って明確に設定することが大切。その上で本時の目標を考え、そのための学習活動を設定する。学習活動の目的は何か教師が意識することが大切。
- 本時の評価規準は目標に準じて設定することが必要。
- 指導と評価の一体化を進める上では、「目標の明確化」、「授業改善」がキーワード。
⇒教師が何を教えるか＝子供にどんな力が身についたか、
教師の指導がどうだったか＝子供の姿がどうだったか

□課題解決的な学習の充実

- 課題設定を充実させるポイントは子供の思考に沿った「つながり」になっているか考えること大切。
本時は課題設定の学習過程においては動機付け→問題意識→問題把握→課題設定の問題意識を高める時間。
- 課題設定でしっかりしないと行動までいかないので、課題設定がとても大切。
- 課題設定では児童の中に「ずれ」「隔たり」「憧れ」「可能性」が生まれるように共通体験をさせ、「不思議だ」「どうして」という気持ちをもたせることが大切。
- 情報収集では「自覚的に行う場合」と「無自覚的に行う場合」をうまくつなぎ合わせて乗法を蓄積させていくことが大切。
- 整理分析ではそれぞれの思考ツールの意味を吟味して活用していくことが大切。
- まとめ、表現では多様な表現活動を活用し既存の経験や知識と整理、分析された情報を組み合わせながら、自身で考えがより明らかになったり、新たな課題が生まれたりするようにしていくことが大切。
- 課題解決的な学習で大事なのは子供たちが「発見・探究・行動」していくこと。主語が子供たちであること。
- 教えモードから「学びモード」、ティチャーから「ファシリテーター」、答えがあるから「答えがない」クローズエンドから「オープンエンド」、解決して終わりから「つながり広がり」としていくことが大切。